

1 「流域治水」と「田んぼダム」

(1) 大雨による水害が増加

近年、全国各地で豪雨災害が頻発しています。

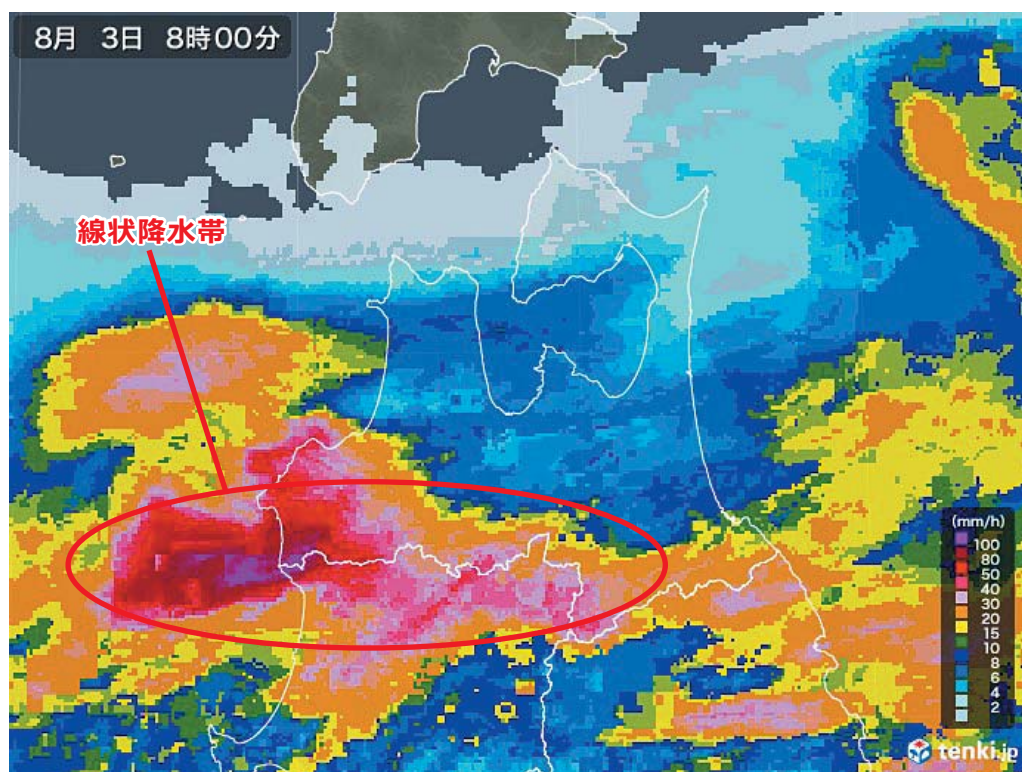
令和4年8月には、前線の停滞の影響で大気の状態が非常に不安定になり、青森県では初となる線状降水帯の発生が津軽地方で確認されました。鱒ヶ沢町、深浦町では、記録的短時間大雨情報が発表されるなど、各地で降水量が観測史上1位を更新し記録的な大雨となりました。

この大雨により、県内では、河川の氾濫、土砂災害や浸水害が多数発生し、多くの家屋や公共施設、農地・農業用施設が被害を受けました。

地球温暖化が進むと大雨の頻度の増加や強度の増大が起きるといわれており、今後もこのような豪雨被害が発生する可能性があり、災害に備え準備や対策を着実にしておくことが求められています。

頻発化・激甚化する災害に備え、準備や対策を着実にしておくことが求められています。

令和4年8月3日の雨雲レーダー



出典：「青森県の雨雲レーダー（2022年08月03日）」（tenki.jp）
（<https://tenki.jp/past/2022/08/03/radar/2/5/>）を加工して作成

令和4年8月3日豪雨 中里川の堤防決壊による農地被害(中泊町)



出典: 青森県

青森県内の1時間降水量30mm以上の発生回数については増加傾向が現れており、日降水量100mm以上の発生回数は増加しているとみられる。



出典:「青森県[アメダス]1時間降水量30mm以上の年間発生回数」(仙台管区気象台)
<https://www.data.jma.go.jp/sendai/knowledge/climate/change/aomori.html>

(2) 「流域治水」の取組

「流域治水」は、河川の管理者が主体となって行う河川整備等の従来の治水対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、国、都道府県・市町村、企業・住民等のあらゆる関係者が一体となって、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を総合的かつ多層的に取り組むものです。

農地・農業水利施設における取組としては、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、「田んぼダム」の取組、ため池、排水施設及び農業用ダムの事前放流などがあげられます。

「流域治水」は、流域のあらゆる関係者が一体となって対策に取り組むものです。

治水ダムや河川堤防といった施設整備には多大な時間と費用がかかる一方で、「田んぼダム」の取組や農業用ため池の活用は比較的安価で迅速に実施できるという特徴があり、各地で取組が広がっています。

「田んぼダム」は比較的安価で迅速に実施できることから、各地で取組が広がっています。

「流域治水」のイメージ



出典：「流域治水の推進」（国土交通省）

(<https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/index.html>)

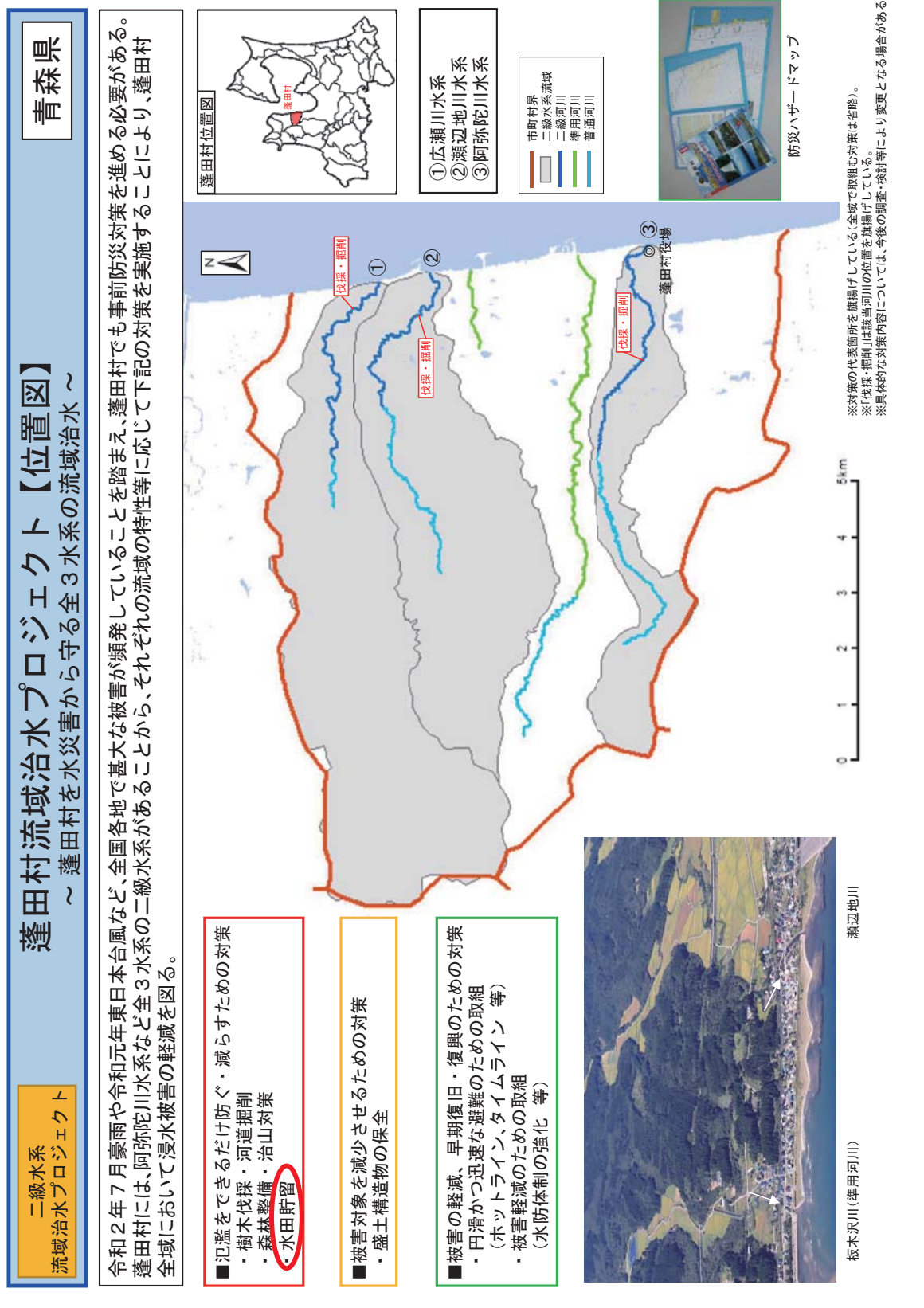
青森県内では、令和3年3月に国直轄河川を有する岩木川、馬淵川、高瀬川の一級水系3水系において流域治水プロジェクトが策定され、その後、令和4年3月までに県が管理する全ての二級水系(79水系)において流域治水プロジェクトを策定し、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速するとともに、プロジェクトの内容やあらゆる関係者との協働体制の更なる充実を図っているところです。

出典：「二級水系「流域治水プロジェクト」」（青森県）

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/ryuwiki_chisui_project.html)

流域治水プロジェクトの例(二級水系)

県内二級水系の流域治水プロジェクトは、青森県庁ウェブサイト
 (https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/ryuiki_chisui_project.html)
 で見るすることができます。



出典:「蓬田村流域治水プロジェクト」(青森県)
 (https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/files/ryuikichisui_project_yomogita_220330.pdf)を加工して作成